

奈良・平城宮跡（第五次調査）

- 1 所在地 奈良市佐紀町
- 2 調査期間 一九六五年（昭40）三月～一〇月
- 3 発掘機関 奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部
- 4 調査担当者 榎本亀治郎
- 5 遺跡の種類 宮殿・官衙跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代～平安時代初期
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
調査地は平城宮の西面中央門の付近にあたる。発掘面積は三六〇〇㎡で、南北一二〇mの長狭な範囲を設定して行われた。検出した主要な遺構は、宮の西面中央門（佐伯門）の東半分と、この門にとりつく西面大垣のほか、南北堀六条と東西堀五条、掘立柱建物四棟及び井戸二基である。木簡は発掘区の西南隅に近いところでみつかった土壙から一点出土した。木簡は墨痕が数点みられるものの解説はできなかった。
- 9 参考文献
奈良国立文化財研究所『奈良国立文化財研究所年報一九六六』（一九六六年）

同『平城宮発掘調査報告Ⅸ』（一九七八年）

（鬼頭清明）

奈良・平城宮跡

- 1 所在地 奈良市法華寺町
- 2 調査期間 一九六六年（昭41）十一月
- 3 発掘機関 奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部
- 4 調査担当者 杉山信三
- 5 遺跡の種類 宮殿・官衙跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代～平安時代初期
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
この調査は平城宮跡東域に関西電力が電柱を立替える際に行ったものである。当時はまだ平城宮跡が、関野貞推定の東限よりもさらに東へ拡張していることが確認できていなかったため、周知の遺跡上での開発工事として処理された。発掘地点は、6ALR区に属する。発掘面積は電柱の立替えに必要な範囲で行ったので、四㎡にすぎない。土壙状の遺構の一部を検出し、その中から、木片多数とともに木簡四点がみつかった。釈読可能なのは一点である。
- 8 木簡の釈文と内容

(1) □ □ 一 未 □

(116)×12×6 081

（鬼頭清明）